NATURAL SOUND STEREO AMPLIFIER

AX-396

プリメインアンプ

取扱説明書

ご使用の前に必ずお読みください。

このたびは、ヤマハステレオプリメインアンプAX-396をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。
AX-396の優れた性能を十分に発揮させるとともに、末永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用の前に必ずお読みくださいますようお願いいたします。
お読みになったあとは、保証書とともに保管してください。

本機は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

特長

● **連続可変式ラウドネスコントロール装備**
聴いている音量レベルに応じて補正量を連続的に可変することができるラウドネスコントロールを装備しています。

● **CD/DVDダイレクトアンプスイッチ搭載**
CDやDVDのハイクオリティなサウンドをより劣化の少ないピュアな音で楽しんでいただくため、CDプレーヤー、またはDVDプレーヤーとパワーアンプ部をプリアンプのみで直結するCD/DVDダイレクトアンプスイッチを装備しています。

● **集中操作に便利な多機能リモコン**
本機の操作はもちろん、本機に接続した他の周辺ヤマハ機器にも対応できる多機能リモコンを付属しています。

目次

安全上のご注意（安全に正しくお使いいただくために）

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例

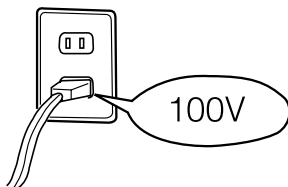
△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

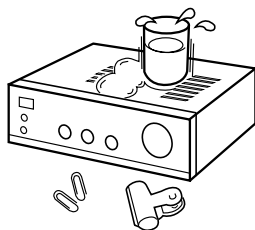
⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

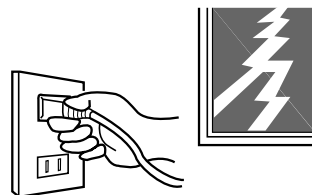
●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

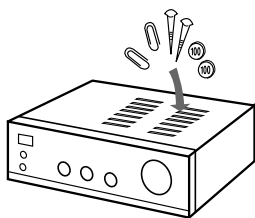
警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

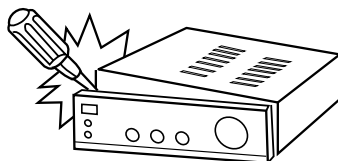
電源電圧交流100V以外の電圧で使用しない

火災・感電の原因となります。
本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。

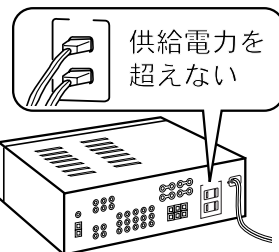
水を入れたり、ぬらさない

火災・感電の原因となります。
本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。

雷が鳴っているときは、アンテナ線や電源プラグに触れない

感電の原因となります。

通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりしない

火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

分解・改造を絶対しない（キャビネットをはずすことも含む）

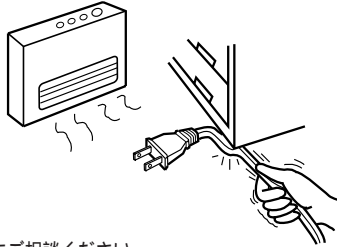
分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

供給電力を超える消費電力の機器を、電源供給コンセントに接続しない

火災の原因となります。
接続機器の消費電力の合計が本機背面に表示されている供給電力を超えないようにしてください。また、供給電力内であっても電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具、ヘアドライヤー、電子レンジなど）は接続しないでください。

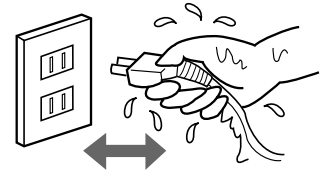
警告

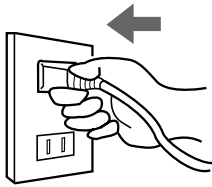
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

電源コード・プラグを破損するようなことをしない

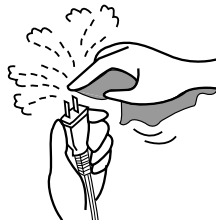
(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる・ねじる、引っぱる、束ねる、重いものをのせるなどしない)

火災・感電の原因となります。

- コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

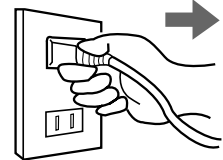
濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない

感電の原因となります。

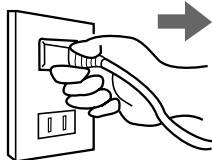
電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。

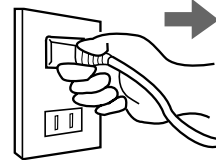
- 抜くときは必ずプラグを持ち、コードを引っぱらないでください。
- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

電源プラグのほこりなどは定期的にとる

プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

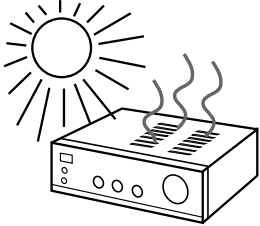
機器の内部に水や異物が入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く

販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

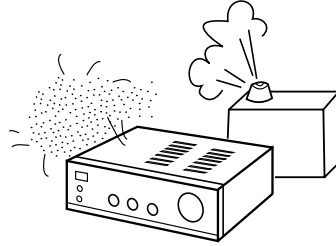
煙が出たり変なにおいや音がしたら、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

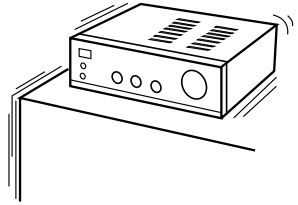
落としたりして本機を損傷した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

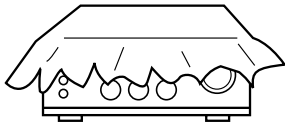
注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

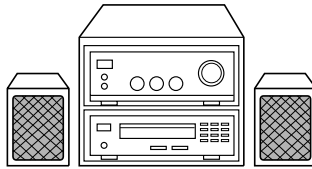
直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に置かない

キャビネットや部品に悪い影響を与えたり、内部の温度が上昇し、火災の原因となります。

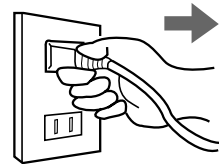
湿気やほこりの多い場所に置かない

火災・感電の原因となります。

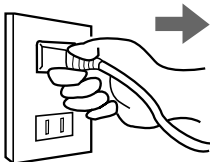
振動のある場所、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない

落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

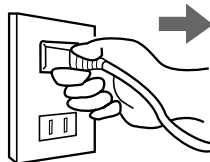
通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となりますので、次の点に注意してください。

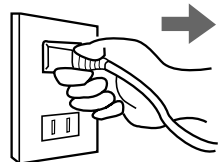
- テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。
- 本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。

放熱をよくするために他の機器との間は少し離して置く

火災・故障の原因となります。ラックなどに入れるときは、本機の天面から30cm以上、左右および背面から20cm以上のすきまを開けてください。

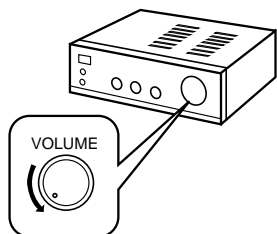
各機器を接続する場合は電源プラグを抜き、説明に従って接続する

各々の機器の取扱説明書をよく読み、接続には指定のコードを使用してください。

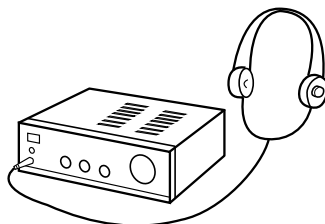
移動するときは電源スイッチを切り、必ず電源プラグを抜き、外部の接続コードを外す

コードが傷つくと火災・感電の原因となります。

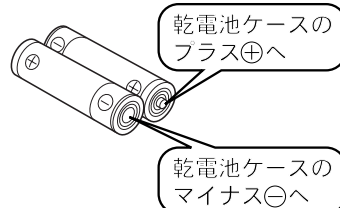
お手入れの際は、安全のため電源プラグを抜く

感電の原因となります。

長期間使わないときは、必ず電源プラグを抜く

火災の原因となることがあります。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て聴力障害などの原因となります。

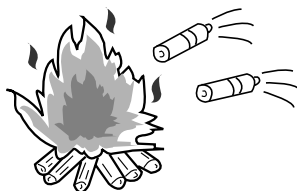
ヘッドホンを使うときは、音量を上げすぎない

大きな音で聞くと、聴力障害などの原因となります。

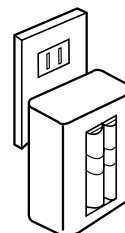
付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示（プラス⊕とマイナス⊖）通りに入れる

間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

指定以外の乾電池は使用しない

取扱説明書に記載されている乾電池を使用する

また、種類の違う乾電池、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となります。

乾電池はショート、分解、加熱、火に入れるなどしない

発熱、液もれ、破裂などを起こし、けが、やけどの原因になります。

乾電池は充電しない

液もれ、破損などを起こし、けが、やけどの原因になります。

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。

本機の内部にほこりがたまったまま長い間掃除しないと、火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

本機の電源オン／オフについて

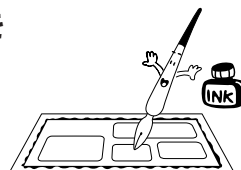
本機の電源をフロントパネルまたはリモコンのスタンバイ／オンスイッチでオフにした場合、本機は電源ラインから完全には遮断されません。この状態をスタンバイ状態と言い、微量ながら通電しています。本機を電源ラインから完全に遮断するには、フロントパネルの主電源スイッチをオフにするか、または電源プラグをコンセントから抜いてください。

本機は音楽や映画などを再生する目的で設計されております。従って信号発生器やテストディスクの信号などを再生しますと、本機の故障の原因となるばかりではなく、スピーカーをいためる原因となることがあります。

これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

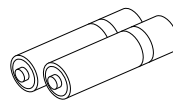
音楽を楽しむエチケット

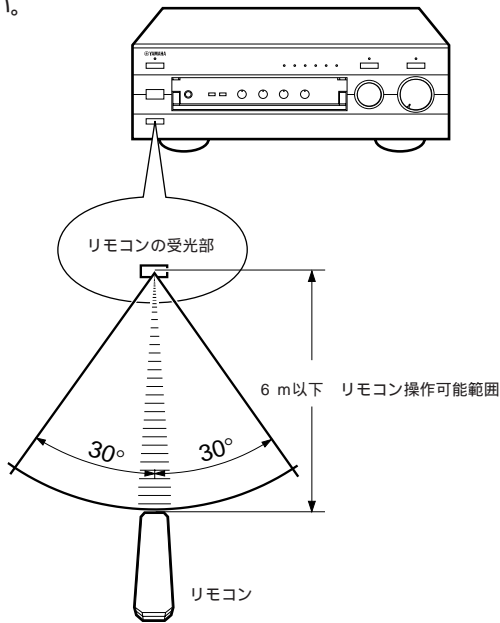
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをおこなってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、十分ご注意ください。

付属品の確認

ご使用の前に、付属品を確認してください。

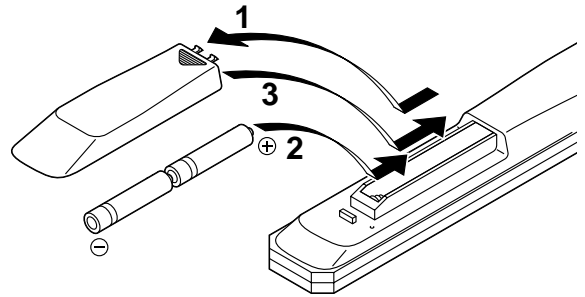
リモコン	単３乾電池（SUM-3）２本

リモコンについて

リモコン信号は直進性の高い赤外線を使っています。リモコンと本体受光部の間に障害物を置かないようご注意ください。

誤動作について
本機のリモコン操作によって他の機器が誤動作する場合は、その機器の設置場所を変えてください。

ていねいに扱ってください
お茶や水をこぼしたり、落としたりしないでください。また、ストーブのそばや風呂場など温度・湿度の高いところには置かないようご注意ください。

リモコン受光部に、直射日光や照明器具 (インバータ蛍光燈など) の強い光が当たらないようご注意ください
強い光が当たっていると、リモコンが動作しなかったり、誤動作の原因となります。

電池交換のしかた

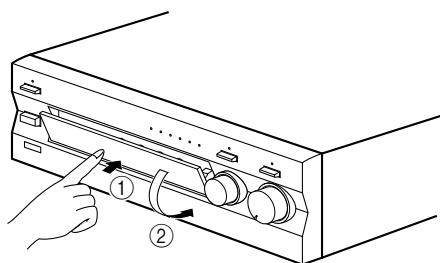
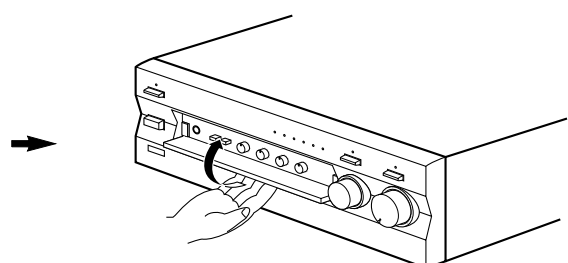
1 リモコンの裏のふたをはずします。
2 単 3 型 (SUM-3) 乾電池を 2 個、プラス(+)とマイナス(−)の向きを、表示どうりに正しく確認して入れてください。
3 電池をセットしましたらカチッと音がするまでふたを閉めます。

電池交換の時期は？
リモコン操作できる距離が短くなってきたら電池が消耗しています。このときは、2 本とも新しい電池に交換してください。

乾電池についてのご注意

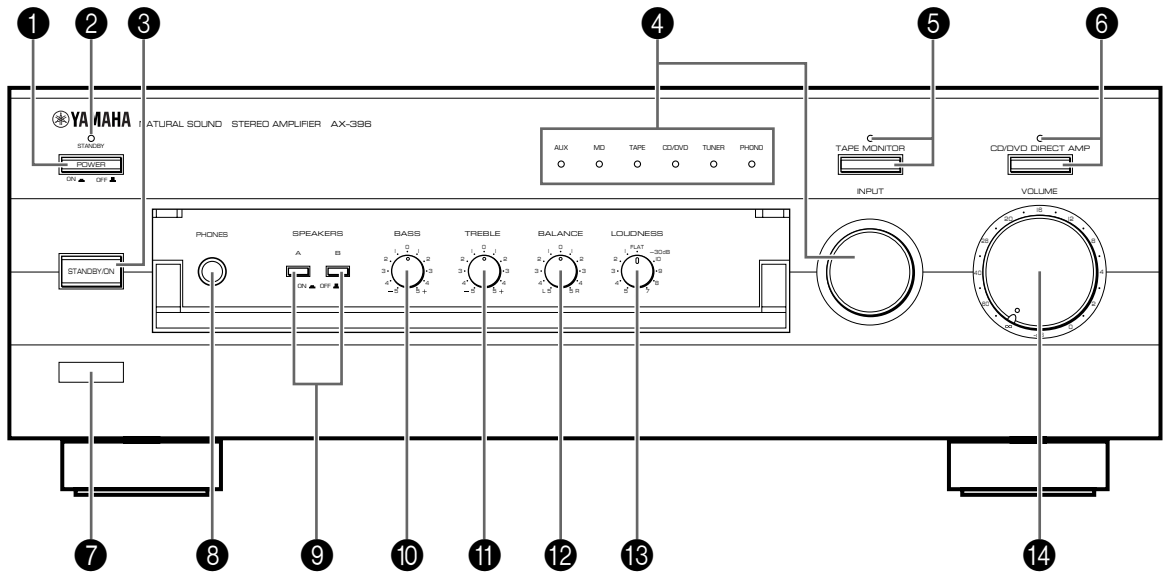
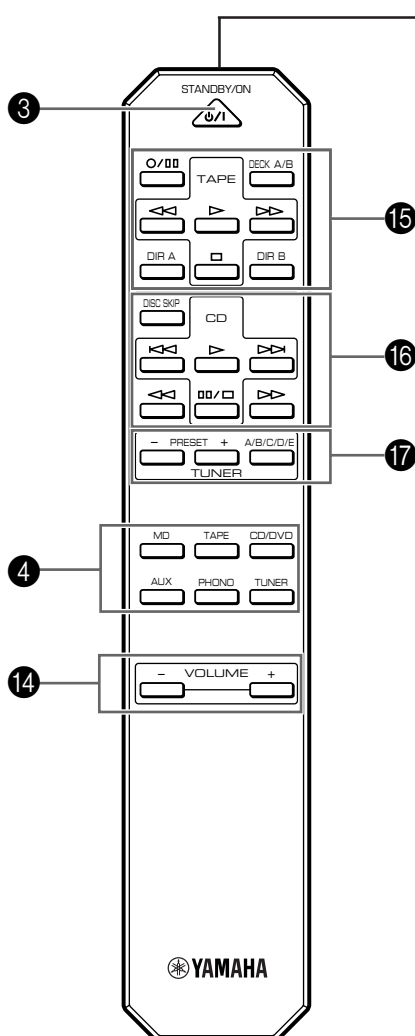
- 単 3 乾電池をご使用ください。
- 新しい電池と、一度使用したものを混ぜて使用しないでください。
- アルカリとマンガンなど種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 電池のプラス（+）とマイナス（−）を金属片で直接つなぐこと（ショート）はしないでください。
- 長い間リモコンを使わないときは、電池を取り出しておいてください。
- 万一液もれが起こったときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから、新しい電池を入れてください。

コントロールパネルの開閉

コントロールパネル上のキーを使用しない場合は、パネルを閉じておくことができます。

開けるとき　　閉じるとき

コントロールパネルの下側を指で押すようにして開けます。

コントロールパネルを下から上に持ち上げるようにして閉じます。

各部の名称とはたらき

フロントパネル

リモコン

リモコン送信窓
本機のリモコンでヤマハのＣＤプレーヤー、チューナー、カセットデッキが操作できます。操作するときは、それぞれの機器のリモコン受光部に向けて送信します。

❶ **主電源スイッチ (POWER)**
本機を使用するときは、このスイッチを押して主電源をオン（ON ▬）にします。この状態の時、フロントパネルまたはリモコンのスタンバイ/オンスイッチを押して、本機を電源オンまたはスタンバイ状態に切り換えることができます。
電源をオンにするときは、ボリュームコントロールを必ず最小の位置 (∞) にしておいてください。
電源をオンにしてから数秒間は、スピーカー保護回路がはたらき、音は出ません。
本機を電源ラインから完全に遮断 (オフ/OFF ▙) するには、もう一度このスイッチを押します。

❷ **スタンバイインジケーター (STANDBY)**
本機がスタンバイ状態のときにのみ点灯します。

❸ **スタンバイ/オンスイッチ (STANBY/ON)**
このスイッチを押すごとに本機が電源オンまたはスタンバイ状態に切り換わります。スタンバイ状態のとき、フロントパネル左上のスタンバイインジケーターが点灯します。
＊ このスイッチは主電源スイッチがオンのときにのみはたらきます。

スタンバイ状態とは
本機が電源ラインから完全に遮断されているのではなく、微量ながら通電した状態です。この状態のとき、フロントパネルまたはリモコンのスタンバイ/オンスイッチで本機の電源をオンにすることができます。

❹ **インプットセレクター/インジケーター (INPUT)**
ツマミを回して再生または録音したいソースを選択します。選択されたソースのインジケーターが点灯します。

PHONO: レコードプレーヤーを再生または録音するとき。
TUNER: チューナー（FM/AM）を再生または録音するとき。
CD/DVD: CD（またはDVD）プレーヤーを再生または録音するとき。
MD: MDプレーヤーを再生または録音するとき。
TAPE: テープデッキを再生または録音するとき。
AUX: ビデオデッキ・レーザーディスクプレーヤーなどAUX端子に接続した機器の音を再生または録音するとき。

＊ OUT (REC) 端子に接続されている機器の電源が切られていると、聴いているソースの音量が下がったり、歪んだりすることがあります。そのようなときは、接続機器の電源を入れてお使いください。

❺ **テープモニタースイッチ/インジケーター (TAPE MONITOR)**
このスイッチを押すとインジケーターが点灯し、テープの再生音を聴くことができます。また、3ヘッドのテープデッキでの録音状態を録音中にチェックできます。
＊ インプットセレクターで選んだソースの再生音を聴くときは、スイッチを押してインジケーターを消し、テープモニターを解除してください。
＊ テープモニター機能がオンのとき (インジケーター点灯時) は、インプットセレクターでテープを選ぶことはできません。
＊ インプットセレクターでテープが選ばれているときは、スイッチを押してもテープモニターは機能しません。

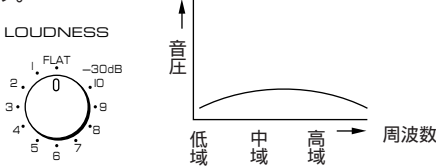
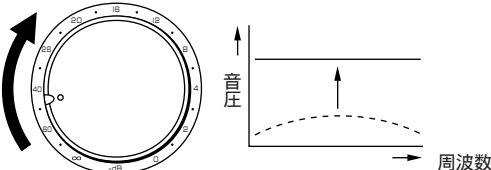
❻ **CD/DVD ダイレクトアンプスイッチ /インジケーター (CD/DVD DIRECT AMP)**
このスイッチを押すと、インジケーターが点灯し、インプットセレクター、テープモニタースイッチの選択に関係なくCD (またはDVD) が優先され再生されます。もう一度押すと解除されます。
信号経路は、テープモニター、バス、トレブル、バランス、ラウドネスの各回路がパスされ、極めてシンプルな回路構成となるため、よりハイクオリティな、CDおよびDVDサウンドがお楽しみいただけます。

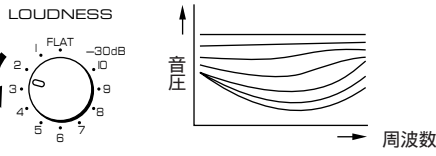
❼ **リモコン受光部**
付属のリモコンからの信号を受ける窓です。

❽ **ヘッドホンジャック (PHONES)**
ヘッドホンを接続する端子です。
ヘッドホンのみで聴くときは、スピーカースイッチのA, Bを両方とも " OFF " (▙）にしてください。
＊ 深夜のプライベートリスニングの際は、ヘッドホンのご使用をお勧めします。

❾ **スピーカースイッチ (SPEAKERS)**
本機に接続されたスピーカーシステム (A, B) を選択するスイッチです。A のボタンを押す (▬) と A 端子に接続されたスピーカーシステムから、B のボタンを押す (▬) と B 端子に接続されたスピーカーシステムから音が出ます。A, B 両方のボタンを押すと A, B 両方のスピーカーシステムから音が出ます。

❿ **バスコントロールツマミ (BASS)**
低音域を調整するツマミで、右(＋)に回すほど低音域が強調され、左(－)に回すほど減衰されます。" 0 " の位置で特性はフラットになります。例えば、バスドラムの音などに迫力を出したいときに便利です。

⓫ **トレブルコントロールツマミ (TREBLE)**
高音域を調整するツマミで、右(＋)に回すほど高音域が強調され、左(－)に回すほど減衰されます。" 0 " の位置で特性はフラットになります。例えば、ハイハットシンバルのような歯切れの良い音を出すときに便利です。

⑫ バランスコントロールツマミ (BALANCE)
左右のスピーカーの音量バランスを調整するときに使います。ツマミを右(左)に回すと左(右)の音が小さくなります。

⑬ ラウドネスコントロールツマミ (LOUDNESS)
人間の聴感は、音量が小さくなればなる程、低音と高音が聴えにくくなるという特性があります。これを補正するのがラウドネスですが、本機では聴いている音量レベルに応じ、補正に必要な量を連続的に可変することができるので、どの音量レベルでも低域から高域まで、不自然なく再生することができます。

ラウドネスの操作方法

1 ラウドネスコントロールツマミをFLATの位置にします。

2 低域から高域までのバランスが最適になるまでボリュームコントロールで音量を上げます。

3 ボリュームは動かさずに、ラウドネスコントロールツマミを回して、実際にお聞きになる音量まで下げます。音量を下げるに従って補正が強まります。

⑭ ボリュームコントロール (VOLUME)
音量を調整します。右に回すほど音量が大きくなり、左に回すほど音量が小さくなります。
リモコンでは、“ ＋ ”キーを押すと音量が大きくなり、“ − ”キーを押すと小さくなります。
キーを押すと同時に、フロントパネルのボリュームコントロールが連動して回ります。
＊ 主電源スイッチやインプットセレクターなどを操作するときや、レコードに針を上げ下げするときは、ボリュームコントロールを必ず最小の位置（∞）にしておいてください。

⑮ テープデッキ操作キー
ヤマハのリモートコントロール対応のテープデッキを操作するキーです。テープデッキの同じマーク、名称を持つキーと同じはたらきをします。

DECK A/B: ダブルデッキのデッキ A とデッキ B の選択をします。
DIR A: デッキ A のテープ走行方向を選択します。(または、オートリバーステープデッキのテープ走行方向を選択します。)
DIR B: デッキ B のテープ走行方向を選択します。
▷: 再生または録音をスタートします。
□ : 再生または録音を停止します。
◁◁: ◁◁ 方向に早送りします。
▷▷ : ▷▷ 方向に早送りします。
○/▯▯: 録音一時停止状態になります。
＊ 詳しくは、テープデッキの取扱説明書をご覧ください。

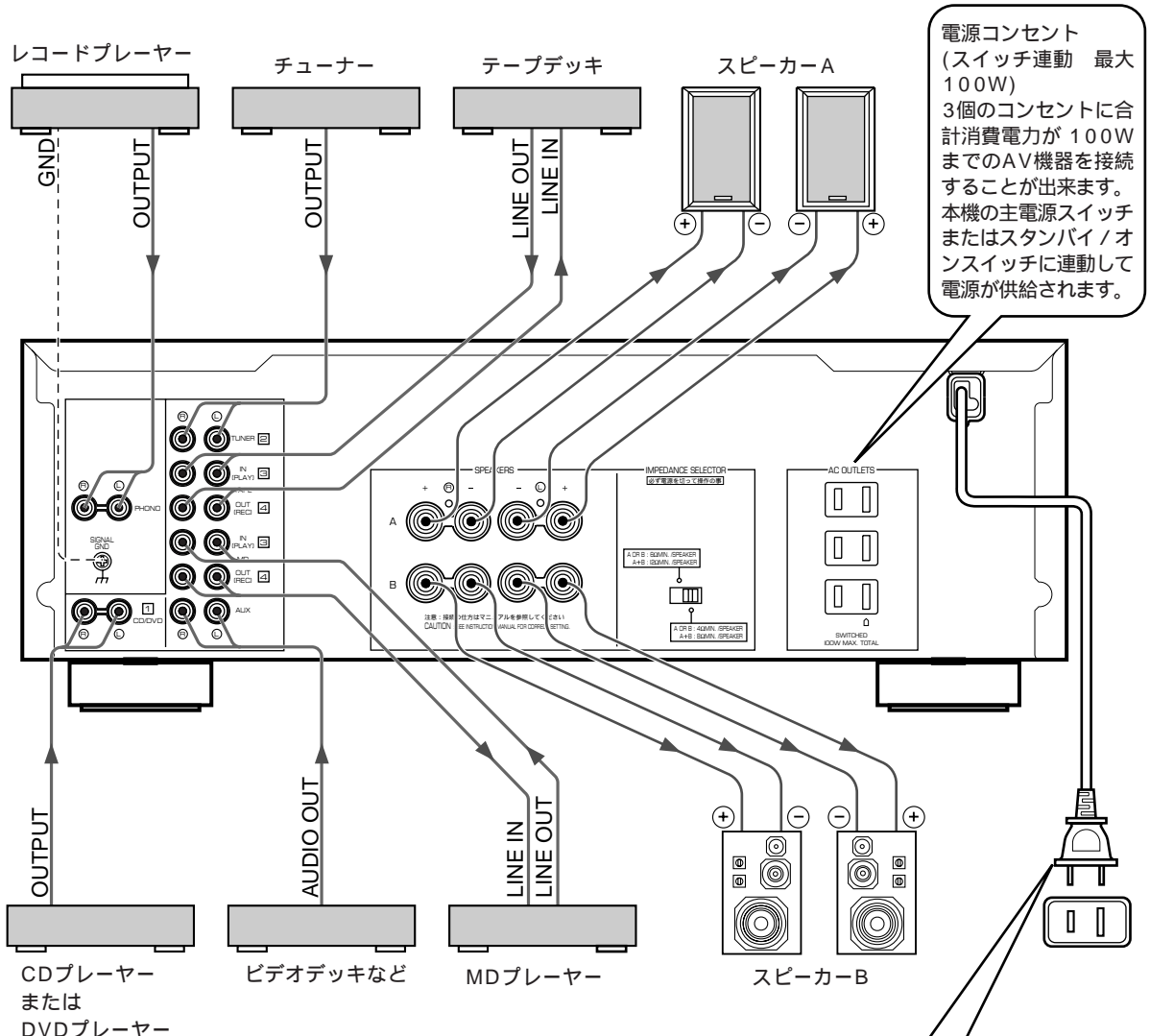
⑯ CD操作キー
ヤマハのリモートコントロール対応のCDプレーヤーを操作するキーです。CDプレーヤーの同じマーク、名称を持つキーと同じはたらきをします。

|◁◁: 曲の頭に戻ります。
▷▷|: 次の曲の頭に進みます。
▷: 演奏がスタートします。
▯▯/□ : 1度押すと一時停止し、もう1度押すと演奏が停止します。
◁◁: 早戻しします。
▷▷ : 早送りします。
DISC SKIP: CDチェンジャーのみに対応します。押すたびにディスク番号が変わり、表示された番号のディスクが選ばれます。
＊ 詳しくは、CDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

⑰ チューナー操作キー
ヤマハのリモートコントロール対応のチューナーを操作するキーです。チューナーの同じマーク、名称を持つキーと同じはたらきをします。

A/B/C/D/E: プリセットのグループ(A/B/C/D/E)を選択します。
PRESET ＋/ー: プリセットされた放送局を選局します。
＊ 詳しくは、チューナーの取扱説明書をご覧ください。

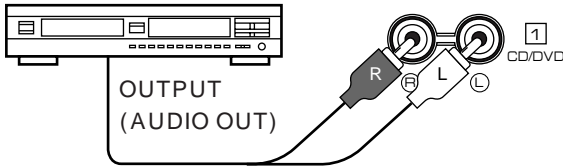
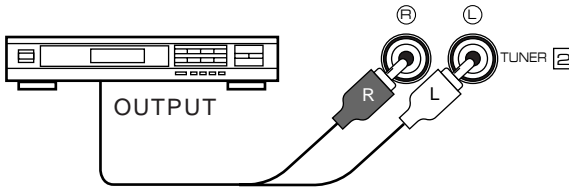
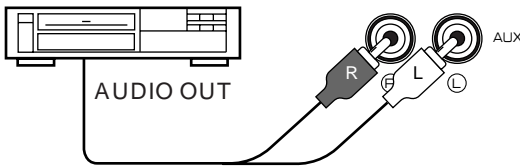
接続のしかた

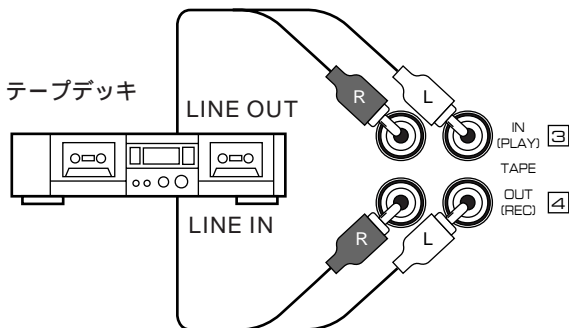
- **接続は、本機および接続する機器の電源プラグをACコンセントから外した状態でおこなってください。**
- 接続する機器によっては端子名が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 入・出力端子を接続する場合、市販のピンプラグコードをご用意ください。
- 接続するときは、各機器のL (左チャンネル)、R (右チャンネル)を確認し、 また、スピーカー接続の場合は、極性 (+、−) を間違えないよう確認して、確実に接続してください。
- 接続に誤りが無いことを確認してから、本機の電源コードを AC コンセントに接続してください。
- 本機が他の機器 (テレビ、チューナー) などに影響を与える場合は、本機とそれらの機器を影響の出ない距離まで離してください。
- 背面の入・出力端子に番号 (1、2、3等) のついたヤマハAV機器を本機に接続する場合は、各機器と本機の同じ番号のついた端子どうしを接続してください。

電源コード
電源プラグは AC100V の家庭用コンセントに接続してください。
本機の消費電力は120W です。
本機の電源コードには、極性表示 (電源トランスの巻き始め側を電源コードに白いラインで表示) がされています。コンセントの長い穴に白いライン側を差し込んでください。極性を差し替えて音質が変わるようでしたら、お好みの極性でお使いください。

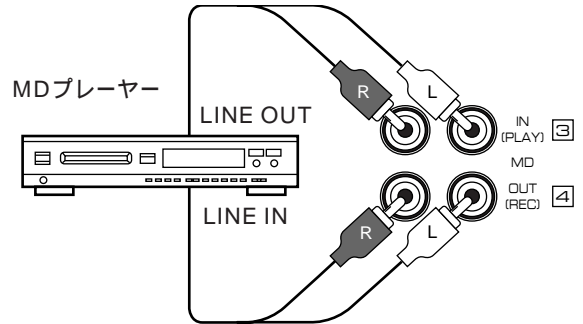
→ ：信号が流れる方向を示します。

■ CD (DVD) プレーヤー、チューナー、その他ビデオデッキなどの接続

CD (DVD) プレーヤーは CD/DVD 端子に、チューナーは TUNER 端子に、その他ビデオデッキなどの音声出力は AUX 端子に、それぞれ L、R を正しく確実に接続します。

CDプレーヤーまたはDVDプレーヤー

チューナー

ビデオデッキ等

■ テープデッキの接続

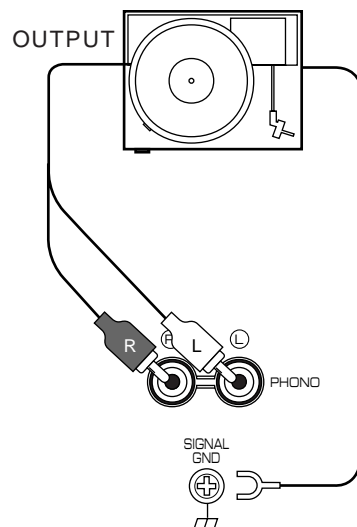
デッキの LINE OUT (PLAY) 端子を本機の IN (PLAY) 端子に、デッキの LINE IN (REC) 端子を本機の OUT (REC) 端子にそれぞれ L、R を正しく接続します。

■ MDプレーヤーの接続

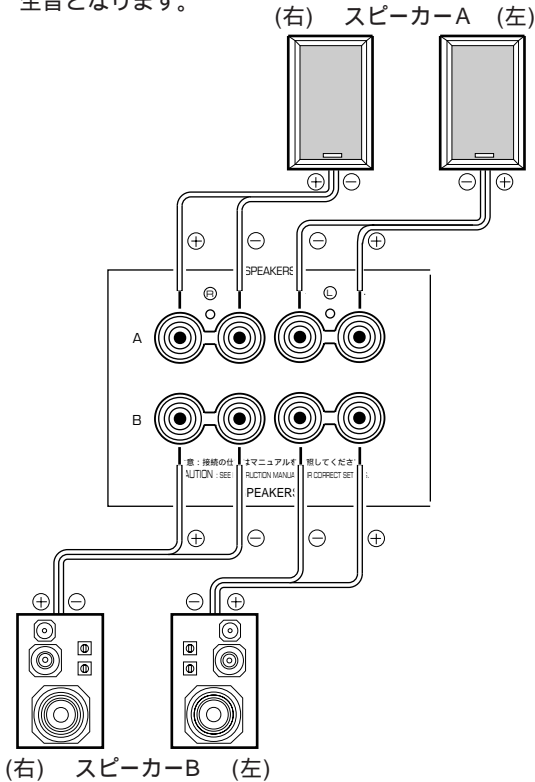
MDプレーヤーの LINE OUT (PLAY) 端子を本機の IN (PLAY) 端子に、MDプレーヤーの LINE IN (REC) 端子を本機の OUT (REC) 端子にそれぞれ L、R を正しく接続します。

■ レコードプレーヤーの接続

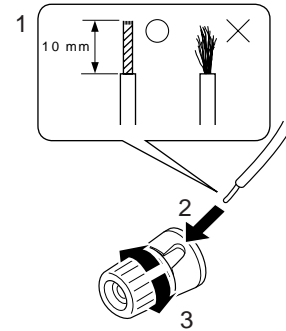
レコードプレーヤーの出力コードを PHONO 端子に L, R を正しく接続します。アース線はSIGNAL GND 端子に接続します。

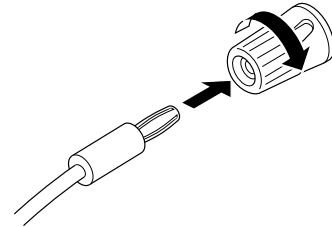
＊ レコードプレーヤーによっては、まれにアース線を SIGNAL GND 端子に接続しない方がハムノイズが減少する場合があります。

＊ SIGNAL GND 端子はアナログプレーヤー等を接続した場合の雑音の低減を図るためのものです。安全アースではありません。

レコードプレーヤー

■ スピーカーの接続

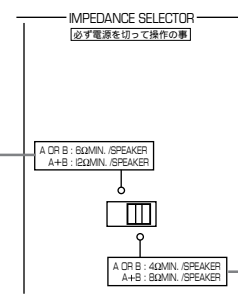
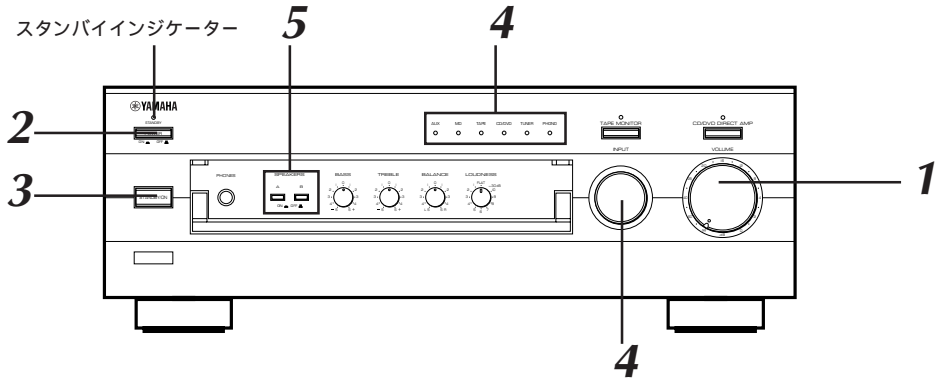
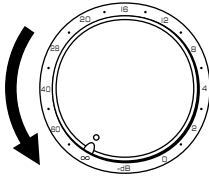
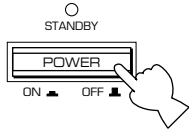
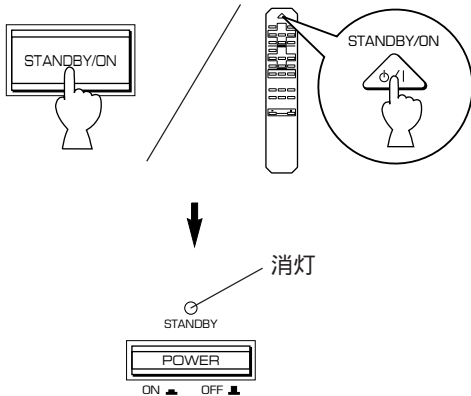
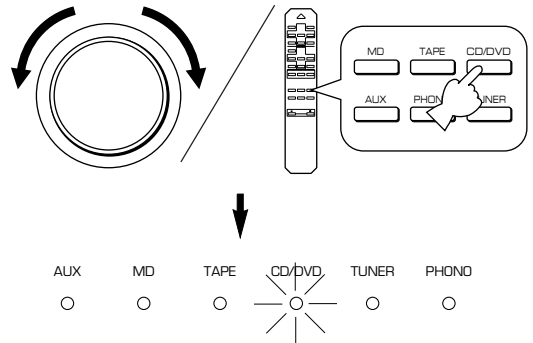
スピーカーA の R 側端子に右側スピーカーを、L 側端子に左側スピーカーを接続します。
アンプの“ ＋ ”端子からスピーカーの“ ＋ ”端子へ、アンプの“ − ”端子からスピーカーの“ − ”端子へ極性を合わせてスピーカーコードを接続します。
スピーカーB にも、スピーカーA と同様にもう一組のスピーカーを接続することができます。
＊ 左右の接続や極性を間違えると、音が中央に定位せず、ステレオ感のない低音のそこなわれた不自然な再生音となります。

スピーカーコードの処理とつなぎかた

1 スピーカーコードの先端の絶縁部を 10 mm 位はがし、芯線がバラけてショートしないよう、指でしっかりよじります。
2 スピーカー端子を左に回してゆるめ、スピーカーコードをスピーカー端子の穴に差し込みます。
3 スピーカー端子を右に回して締めつけます。
芯線部分が穴からはみ出ていないかどうかを確認してください。

バナナプラグの場合

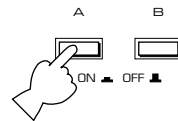
バナナプラグを使用する場合は、端子を強くしめてから差し込んでください。

インピーダンスセレクターの切り換え

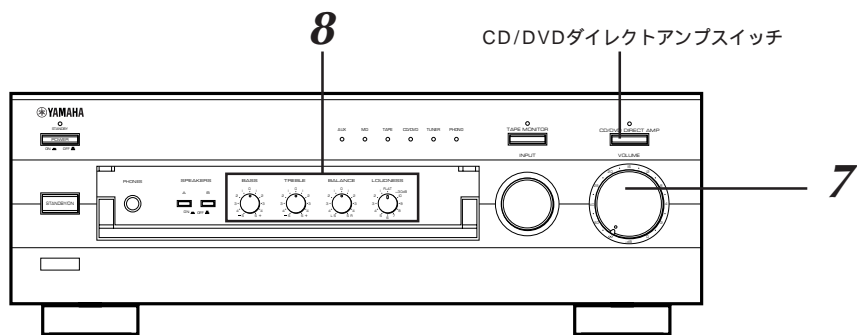
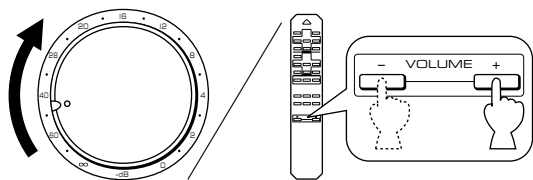
スピーカーシステムのインピーダンスに合わせて背面のインピーダンスセレクターを切り換えます。正しく設定しないと本機やスピーカーの故障の原因となるので注意してください。

- **必ず電源を切った状態で切り換えてください。**
- セレクターは右側または左側にしっかり寄せてください。中途半端な位置にすると、電源が入らなかったり電源が切れてしまうことがあります。

ご注意
A、B単独で3Ω以下、A、B同時使用で7Ω以下のスピーカーは使えません。

操作のしかた（再生する）

1　本機のボリュームコントロールを“∞”（最小）に合わせます。

2　本機、ならびに各機器の (主) 電源スイッチをオンにします。

3　本機がスタンバイ状態（スタンバイインジケーターが点灯）であれば、スタンバイ／オンスイッチを押して電源をオンにします。（スタンバイインジケーターが消灯します。）

4　インプットセレクターを回して、再生したいプログラムソースを選択します。

選択されたソースのインジケーターが点灯します。

＊CD/DVDダイレクトスイッチを押すと、インプットセレクターの位置にかかわらずダイレクトにCD (またはDVD) が選ばれ、クオリティの高いCD (またはDVD) 再生が楽しめます。

5　スピーカースイッチで音を出すスピーカーを選びます。　SPEAKERS

6　インプットセレクターで選択したプログラムソースを再生します。

再生のしかたはそれぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

7 ボリュームコントロールで音量を調節します。

8 お好みに応じて、バス、トレブル、バランス、ラウドネスでの音質調節を設定します。（9～10ページ参照）

本機の使用を一時的に終えるには

スタンバイ／オンスイッチを押します。（スタンバイインジケーターが点灯します。）

本機を電源ラインから完全に遮断 (オフ) するには

もう一度主電源スイッチを押します。

CD/DVDダイレクトアンプスイッチについて

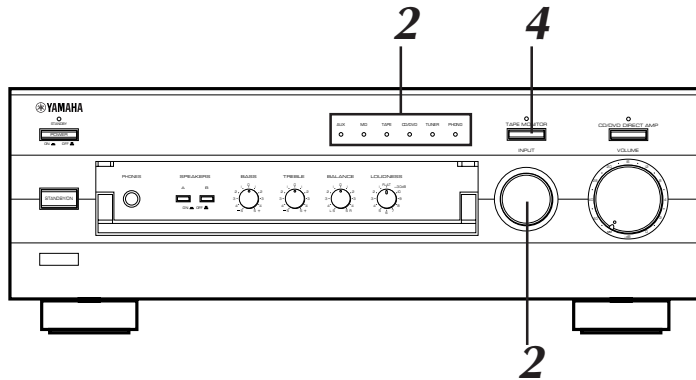
インプットセレクターやテープモニターの選択に関係なく、CDやDVDを高度な音質を損なうことなく再生するために、信号は音質調節の各回路を通らずに出力されます。そのため、バス、トレブル、バランス、ラウドネスの各機能は働きません。

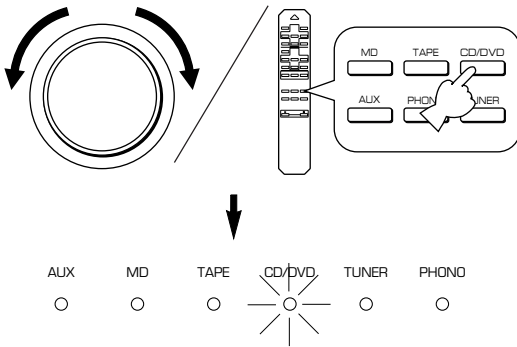
ご注意

- ラウドネスを設定したまま、CD/DVD ダイレクトアンプスイッチを押すと、急激に大音量になることがあります。スイッチを押すときは、あらかじめボリュームコントロールを左に回し、音量を下げてください。
- テープモニターインジケーターが点灯しているときは、インプットセレクターで選んだソースの再生音を聴くことができません。テープモニタースイッチを押してインジケーターを消灯させてください。

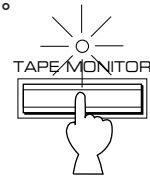
操作のしかた（録音する）

本機は、インプットセレクターで選んだ入力ソースをそのままOUT (REC) 端子に出力するため、録音するための操作を本機側で行うことはありません。

録音レベルの調整は、テープデッキまたはMDプレーヤー側で行います。ご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

1 **14ページ「再生する」の手順 *1*〜*3* と同じ操作をします。**

2 **インプットセレクターを回し、録音したいプログラムソースを選択します。**

選択されたソースのインジケーターが点灯します。

3 **テープデッキまたはMDプレーヤーを操作して録音を開始すると同時に、録音するプログラムソースの再生を始めます。**

4 **3ヘッドのテープデッキでの録音をモニターする場合は、テープモニタースイッチを押します。**

再生音を確認するときは、ボリュームコントロールで音量を調節します。

ご注意

- 本機をスタンバイ状態にするか、または電源ラインから完全に遮断 (オフ) すると、接続した機器間の録音はできません。
- 録音機器からの再生音を同じ録音機器で録音することはできません。[IN (PLAY) 端子から入った信号は、同じ機器の OUT (REC) 端子には出力されないので録音することはできません。]
- 録音中に、ボリューム、バス、トレブル、バランス、ラウドネスの調節をしても、録音には影響しません。

故障かな？と思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の主電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
主電源スイッチとスタンバイ/オンスイッチをオンにしても電源が入らない。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください。
電源が切れてしまい、主電源スイッチを押しても電源が入らない。	背面のインピーダンスセレクターの位置がずれている。	インピーダンスセレクターを右側または左側に正確にセットしてください。
音が出ない。	再生したいプログラムソースのインプットセレクターが正しく選択されていない。	再生したいプログラムソースのインプットセレクターを選択してください。
	スピーカースイッチがOFFになっている。	スピーカースイッチでスピーカーが接続されている端子(AまたはB)を選択してください。
	接続が不完全。	接続を確認してください。
インプットセレクターを切り換えてもCD(またはDVD)以外の音がでない。	CD/DVDダイレクトアンプスイッチがオンになっている。	CD/DVDダイレクトアンプスイッチを押して機能を解除してください。
片チャンネルの音がでない。	バランスコントロールツマミがどちらか一方に回し切られている。	バランスコントロールツマミで左右の音量バランスを調整してください。
	接続が不完全。	接続を確認してください。
低音のない不自然な再生音で、音像が安定しない。	スピーカーの接続でLとRや極性(+、−)が合っていない。	スピーカーのLとRや極性(+、−)を正しく接続しなおしてください。
ハム音がでる。	ピンプラグコードの接続が不完全。	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください。
	レコードプレーヤーのアースコードを接続していない。	アースコードを本機のSIGNAL GND端子に接続してください。
ボリュームコントロールを回しても音量があまり上がらない。	ラウドネスコントロールがはたらいている。	ラウドネスコントロールツマミをFLATの位置にセットしてください。
ボリュームコントロールを回しても音量があまり上がらなかったり音がひずんだりする。	本機のOUT(REC)端子に接続された機器の電源が切られている。	本機のOUT(REC)端子に接続された機器の電源を入れてください。
バス、トレブル、バランス、ラウドネスがはたらかない。	CD/DVDダイレクトアンプスイッチがオンになっている。	CD/DVDダイレクトアンプスイッチを押して機能を解除してください。
リモコン操作ができない。	乾電池が消耗している。	乾電池を2本とも交換してください。
	リモコンの操作距離、角度が不適当。	本体のリモコン受光部に対して6m以内、角度30度以内の範囲で操作してください。
	リモコン受光部に強い日光や照明(インバータ蛍光灯など)が当たっている。	受光部に強い光が当たらないように置き場所や方向、または照明の位置をくふうしてください。

参考仕様

パワーアンプ部

定格出力
8Ω、20Hz〜20kHz、0.019% THD
.... 60W＋60W

実用最大出力 (EIAJ)
6Ω、1kHz、10% THD 110W

ダイナミックパワー (IHF)
8Ω/6Ω/4Ω/2Ω 100W/120W/140W/150W

パワーバンド幅
8Ω、1/2出力、0.04% THD .... 10Hz〜50kHz

ダンピングファクター
8Ω、20Hz〜20kHz 240

周波数特性 .... 20Hz〜20kHz±0.5dB

全高調波歪率 (20Hz〜20kHz)
CD/DVD → SP OUT (8Ω、1/2出力) 0.008%

SN 比 (IHF A ネットワーク、入力ショート時)
CD/DVDダイレクトアンプオン時 110dB
PHONO 88dB

残留ノイズ (IHF A ネットワーク)
CD/DVDダイレクトアンプオン時 35μV

コントロール部

入力感度/入力インピーダンス
CD/DVD等 150mV/47kΩ
PHONO 2.5mV/47kΩ

出力電圧
REC OUT 150mV/1.6kΩ

ヘッドホン出力 0.25V/680Ω

チャンネルセパレーション (1kHz/10kHz)
CD/DVD (5.1kΩ) 65dB/50dB

トーンコントロール
BASS .... ±10dB (20Hz)
TREBLE .... ±10dB (20kHz)

コンティニュアスラウドネスコントロール
最大補正率 .... −30dB (1kHz)

電源・その他

定格電源電圧、周波数 .... AC 100V、60/50Hz

消費電力 120W

電源コンセント (スイッチ連動) × 3
.... トータル 最大 100W

外形寸法 (W×H×D) .... 435×151×391mm

重量 8.7kg

付属品 .... リモコン
単 3 乾電池 2 本

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

＊ 「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。

＊ 参考仕様および外観は予告なく変更されることがあります。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

● 保証期間
お買い上げ日より１年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

- ◆ **技術料**　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- ◆ **部品代**　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- ◆ **出張料**　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後８年（テープデッキは６年）です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 持ち込み修理のお願い
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
*　品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品（下記参照）が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ、リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

■ ヤマハ電気音響製品サービス拠点
(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持ち込み窓口)

北海道	〒064-8543	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL（011）512ー6108
仙　台	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL（022）236ー0249
首都圏	〒211-0025	川崎市中原区木月1184 TEL（044）434ー3100
浜　松	〒435-0048	浜松市上西町911 ヤマハ（株）宮竹工場内 TEL（053）465ー6711
名古屋	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ（株）名古屋流通センター3F TEL（052）652ー2230
大　阪	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ（株）千里丘センター内 TEL（06）6877ー5262
広　島	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14 TEL（082）874ー3787
四　国	〒760-0029	高松市丸亀町8-7 ヤマハミュージック神戸高松店内 TEL（087）822ー3045
九　州	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL（092）472ー2134

愛情点検

★ 永年ご使用の本機の点検を！

こんな症状はありませんか？

- ● 電源コード・プラグが異常に熱い。
- ● コゲくさい臭いがする。
- ● 電源コードに深いキズか変形がある。
- ● 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- ● 電源を入れても正常に作動しない。
- ● その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口
AVお客様ご相談センター
TEL（03）5488ー5500

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中沢町10-1
AV機器事業部
営　業　部　　TEL（053）460ー3451
品質保証室　　TEL（053）460ー3405
住所および電話番号は変更になることがあります。

Printed in Malaysia　V501840